

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

わたしたちは、予防医学を通じて人々の「生涯健康」「健康寿命の延伸」をめざし、健康と福祉の向上に努めることにより、社会に貢献してまいります。

# よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2017(平成29)年4月15日 第518号

(公財)東京都予防医学協会  
予防医学事業中央会東京都支部

編集・発行人 小野良樹

発行所 〒162-8402  
東京都新宿区市谷砂土原町1-2  
保健会館 電話 03-3269-1131

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行

## 公益財団法人東京都予防医学協会は 創立50周年を迎えました

### 50年の取り組みを礎に さらに快適なサービスを目指します

1967年3月、本会は前身である財団法人東京寄生虫予防協会の事業を引き継ぎ、より広い領域での予防医学事業の展開を目指して誕生しました。当時の主な事業は細菌検査、胃がん検診、学童集団検尿、細胞診、人間ドックなどでした。50年の間に日本人の生活習慣や疾病構造などが大きく変化化する中、本会は「知識の普及や啓発」「調査研究」「公共団体・医師会などが行う活動への協力」「健康診断と検査」を柱に、健康増進、疾病予防対策に取り組み続けています。こうした公益性の高い活動が認められ、2012年4月1日からは公益財団法人となりました。新たな50年に向けて、都民一人ひとりが健康に関する正しい知識を持ち、健康的な生活を保持できるよう、予防医学事業をさらに推進していくことが本会の使命です。

規則を遵守し、相互扶助の「価値を得ています。思いやり精神、並びに石橋をたたいて渡る緻密さが、わが協会の特徴です。」  
こうした取り組みを50年積み重ね、現在は230人の職員を擁する公益財団法人に成長しました。

自前の保健会館本館、検査研究棟を有し、健(検)診精度の高さでは本邦有数との評価を受けています。



本会理事長  
小野良樹

また地域健診では、東京都を年間10万人実施しています。加えて子宮がん細胞診は年間26万人に及びます。

さらに学校健診では少子化にもかかわらず、着実にその実数を伸ばしてきました。

また地域健診では、東京都に比べ、CT検査の診断に優れ、現在、CT検査の死亡率減少効果の検証を目指したRCT(ランダム化比較試験)にも参加しています。

また、乳がん検診では、マンモグラフィ、超音波検査のトップランナーであり、新たに3Dマンモグラフィ(トモシンセシス)の有効性評価の研究にも着手する予定です。

これらは、50年にわたる本会の歴史の中で先達の業績です。

### 創立50周年のお祝い

公益財団法人東京都予防医学協会が、創立50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

わが国は、高い医療水準と国民皆保険制度などの社会保障制度に支えられながら、世界でも有数の長寿国家となり



東京都福祉保健局 技監  
笹井敬子

この間、疾病構造の変化や社会のニーズに合わせて各種健診・検査、健康教育等、疾病予防を実践してこられた皆様のご尽力に心よりお礼を申し上げます。

最後に、東京都予防医学協会が歩まれてきた輝かしい道のりが、今後ますます充実したものといたしますよう、また、関係者の皆様方のご健康を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

さらに学校健診では、東京都を年間10万人実施しています。加えて子宮がん細胞診は年間26万人に及びます。

また、乳がん検診では、マンモグラフィ、超音波検査のトップランナーであり、新たに3Dマンモグラフィ(トモシンセシス)の有効性評価の研究にも着手する予定です。

これらは、50年にわたる本会の歴史の中で先達の業績です。



これまで業績を礎に、今後は1次予防にも力点を置きつつ、より快適な医療空間の創造を目指して、役職員一同、切磋琢磨してまいります。

これからの引き続きのご支援・協力の程よろしくお願いたします。

送付先の変更・中止について  
送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を本会広報室までお知らせください。

### 個人情報の取扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと考えております。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、左記広報室までご連絡ください。

### 今月の主な紙面

(1面) ● 創立50周年を迎えました—本会

(2・3面(見開き))

- 連載 ホルモンからみた思春期のこころと体(2)
- 連載 困っていませんか!? 子どものスマホ(最終回)
- 東京都予防医学協会50年のあゆみ

(4面) ● 学校検診の円滑な実施に向け

- 心臓検診、腎臓検診の打ち合わせ会を開催—本会
- よりよい健康診断のために
- 医師、看護師によるミーティングを開催—本会
- 平成28年度第3回理事会を開催—本会
- 本会年報2017年版ができました

送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を本会広報室までお知らせください。



Eメール koho@yobouigaku-tokyo.jp  
FAX 03-3269-7562  
電話 03-3269-1131  
でも承っております。



# ホルモンからみた思春期のこころと体

政策研究大学院大学 保健管理センター 教授 鈴木眞理

「可愛い」とか「好き」と思っている相手に触れると、脳の下バミンを介してオキシトシンが増加します。すると、オキシトシンの作用で安心や幸福を感じるので、相手をもっと好きになります。

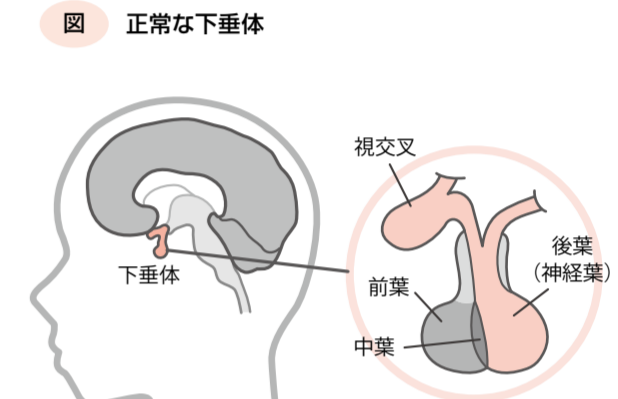


図 正常な下垂体

## 「もつと好きになる」オキシトシン 「夜尿症に効く」バソプレッシン

脳下垂体は口蓋由来の前葉と脳由来の後葉からなり(図)、前回は前葉で分泌されるオキシトシンとバソプレッシン、後葉から分泌されます。成長ホルモンは1日1回の成長ホルモンの分泌が、オキシトシンは母体から必要ホルモンだと認識されました。

オキシトシンの分泌を刺激する食品は、残念ながら見つかるオキシトシンは増やす自分のオキシトシンは増やす。オキシトシンの分泌を刺激する食品は、残念ながら見つかるオキシトシンは増やす。

### 日本小児連絡協議会主催 パネルディスカッションから スマホ時代を賢く生きる 困っていませんか!? 子どものスマホ

坪田一男 慶應義塾大学医学部 眼科学教室教授



近視には、親が近視な子どもも近視になりやすいという遺伝的要素があります。近年の近視の急増を見れば、環境因子の影響がそれ以上に大きいと考えられます。

## スマホと子どもの目へ眼科医の立場から

近視と屋外環境光 近年、近視が世界的に急増しています。日本を含む東アジアで特に顕著で、日本では、高校生業時に約80%が近視になっているという状況です。

この研究は世界で大きく注目され、その後の各国の研究で、屋外環境光(外の光)の近視予防効果が確認されています。

表 ブルーライト研究会からの提言

夜はスマホは使用しない、させない
特にベッドへのスマホの持ち込みを避ける
どうしても使用する場合はブルーライトによる身体時計の乱れに注意する

ブルーライトと体内時計 青色発光ダイオード(LED)は、明るく、長時間使用すると、体内時計が乱れる。

ブルーライトと体内時計 青色発光ダイオード(LED)は、明るく、長時間使用すると、体内時計が乱れる。

17	3月31日 創立50周年を迎える
16	本会創始者・初代理事長 國井長次郎 生誕100周年、没後20周年
15	保健会館本館がリニューアルオープン/ホームページをリニューアル、フェイスブックを開設
13	検査研究センター棟が完成/八王子市HPV検診検証事業に協力
12	公益財団法人への移行申請が承認され、4月1日より公益財団法人東京都予防医学協会となる
11	東日本大震災の被災者支援に協力
09	「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験(JSTARI)」に参加
08	生活習慣病予防活動をさらに推進/マンモグラフィ検診車による鳥しよ部の乳がん検診を開始
07	新生児マススクリーニング30周年記念事業「東京都予防医学協会賞」を設立/プライバシーマークの認定取得
06	個人情報保護方針を制定
05	昭和大学医学部の研修医を対象に、臨床研修施設としての協力を開始
04	大幅な組織改革を行い、健康支援センターを立ち上げる/乳がん検診車を購入/第2代理事長 福見一清死去
03	韓国健康管理協会の学術大会に、北川理事長が日本の健康支援機関の代表として招かれ講演
02	健診施設の改装・拡張を行い、マンモグラフィ装置を導入/マルチスライスヘルカレントを導入/地域住民を対象とした対策型がん検診を開始
01	予防医学事業中央会の健診・検査データの共有化に参加/代謝疾患のスクリーニングの充実を図るため、タンデムマスを導入/グリーンルームを拡充し、子宮がん・乳がん検診のための女性専用検診ルームを開設
2000	本会のホームページを開設/本会のシンボルマークが決定
99	子宮がん検診の延べ受診者数が500万人を突破
97	学校保健セミナー200回達成
96	新食品衛生法に基づく食品検査体制の充実・強化を図る/本会創始者・初代理事長 國井長次郎死去
95	人間ドックにリカルCTを導入/第29回予防医学事業中央会「予防医学技術研究会」第40回予防医学事業中央会(全国大会)を開催
93	東京から肺がんをなくす会(ALICA)の肺がん検診に、世界で初めてヘリカルCTを導入
92	職域の健康づくりを推進する「健康づくり懇話会」の発足に協力/骨粗しょう症検診(骨密度測定)を開始
90	健康教育事業の強化、充実のため、健康教育事業本部を新設/台湾で学校検尿開始、本会が技術指導
89	健康教育事業の認定を受ける
88	検査・健診の精度向上と、情報量の急速な増加に対応し、コンピュータシステムのグレードアップを図る(第2次コンピュータ計画スタート)
87	小児成人病予防健診の事後指導用に「ポケットコンピュータ」(ポケコン)を開発
85	小児成人病予防健診を開始
82	ホルター心電図解析センターを開設し、診療所や病院への心電図解析サービスを開始
81	子宮がん検診100万人を達成
80	妊婦甲狀腺機能検査を開始/乳がん検診を開始
78	文部省科学研究「学童心臓集団検診のコンピュータ化に関する研究」に協力
75	国立がんセンター胸部グループと協力して、会員制肺がん検診組織「東京から肺がんをなくす会(ALICA)」を設立/学童の脊柱側弯症検診を開始
74	学童糖尿病検診を開始/新生児の先天性代謝異常症マススクリーニングを開始
73	寄生虫予防で日韓両国民間交流開始/健康管理コンサルタントセンターの発足に協力/グリーンルーム(現・女性検診センター)を新設/施設内で子宮がん検診を開始
72	鳥しよ部の住民健診を開始
71	日本医師会の「臨床検査精度管理調査」に参加
70	事業年報第1号を発刊
69	学童腎臓病検診を開始/機関紙「よぼう医学」創刊
68	子宮がん細胞診検査を開始/学童心臓病検診を開始/職域の健康管理の充実を目的に「成人病予防講演会」(後の「ヘルスケア研修会」)の第1回を開催
1967	財団法人東京寄生虫予防協会の主たる事業(細菌検査、胃がん検診、学童集団検尿、細胞診、人間ドックなど)及び職員を引き継ぎ、都知事の許可を受けて財団法人東京都予防医学協会が発足(会長 黒川利雄、理事長 國井長次郎)

新たな50年に向けて 公益財団法人として再出発	21世紀型の予防医学を目指して 疾病予防から健康増進へ	事業の拡張と再編 新たな健診・検査への挑戦	よぼう医学の土台づくり 寄生虫予防から予防医学へ
熊本地震	「健康日本21(第2次)」がスタート	「成人病」が「生活習慣病」に改称	大平正芳総理が在任中に急死
「がん対策加速化プラン」策定	「健康日本21(第2次)」がスタート	「事業場における労働者の健康保持増進のための指針」が改正	老人保健法成立。老人保健事業第1次5ヵ年計画により、胃がん・子宮頸がん検診が導入
「がん対策加速化プラン」策定	「健康日本21(第2次)」がスタート	「成人病」が「生活習慣病」に改称	大平正芳総理が在任中に急死
「がん対策加速化プラン」策定	「健康日本21(第2次)」がスタート	「成人病」が「生活習慣病」に改称	大平正芳総理が在任中に急死

## 東京都予防医学協会50年のあゆみ

本会のできごと

社会のできごと・健康関連の話題



# 学校検診の円滑な実施に向け

## 本会

### 心臓検診、腎臓検診の打ち合わせ会を開催



心臓検診打ち合わせ会



腎臓検診打ち合わせ会

新年度を迎え、小・中・高等学校では児童生徒の健康診断が一旦スタートしている。これに先立ち、本会では例年、それぞれの検診の打ち合わせ会を開き、検診の円滑な実施を図っている。今年も、心臓検診の打ち合わせ会を3月2日に、腎臓検診の打ち合わせ会を3月10日に開催した。打ち合わせ会には、本会の検診の指導及び検診で異常が見つかった子どもたちの診断や治療などを担当している専門医や本会のスタッフが参加し、関係者間の共通理解と連携を深めた。

打ち合わせ会では、各検診の2016年度の実績が報告され、17年度に実施する予定の件数や日程の確認などが行われた。また、16年度に発見された症例の追跡結果等についての報告を受け、より充実した検診のあり方をめぐって活発な議論が交わされた。それぞれの打ち合わせ会に参加した医師は次の各氏である(順不同・敬称略)。

- ▼心臓検診  
 浅井利夫(東京女子医科大学名誉教授)、鮎沢衛(日本大学医学部准教授)、神山浩(同大学准教授)、伊東三吾(篠原病院院長)、深澤隆治(日本医科大学准教授)、稀代雅彦(順天堂大学医学部准教授)、福永英生(同大学)、佐地勉(東邦大学医学部名誉教授)、松裏裕行(同大学医療センター教授)、鈴木淳子(山

- 岡クリニック院長)、三澤正弘(都立墨東病院部長)、土井庄三郎(東京医科歯科大学大学院教授)、村上保夫(日本心臓血管研究振興会常務理事)、山岸敬幸(慶應義塾大学医学部教授)、弓倉整(板橋区医師会)

- ▼腎臓検診  
 村上睦美(日本医科大学名誉教授)、五十嵐徹(同大学講師)、今井文英(同大学講師)、山田哲史(東京慈恵会医科大学助教)、相良長俊(同大学)、高橋昌里(日本大学医学部教授)、浦上達彦(同大学教授)、諸橋環(同大学助教)、田中絵里子(東京医科歯科大学助教)、大森多恵(都立墨東病院院長)、亀井宏一(国立成育医療研究センター)、鷺池麻理(武蔵野赤十字病院)、西堀由紀野(杏林大学医学部講師)、服部元史(東京女子医科大学教授)、松山健(公立福生病院)、濱崎祐子(東邦大学医学部講師)、長谷川慶(同大学助教)、菊池絵梨子(練馬光が丘病院)

## よりよい健康診断のために

医師、看護師によるミーティングを開催

本会では毎年、健康診断に従事している医師や看護師と関連スタッフによるミーティングを開催している。健診現場で起こるさまざまな問題や課題を話し合い、共通理解を深めて、健診精度や

サービスの向上を図ることが目的だ。2月18日に本会で行われたドクターズ・ミーティングには、学校や地域、職域などの健康診断を担当する医師と本会のスタッフら約50人が参加した(写真上)。



本会では毎年、健康診断に従事している医師や看護師と関連スタッフによるミーティングを開催している。健診現場で起こるさまざまな問題や課題を話し合い、共通理解を深めて、健診精度や

年度の事業概要や17年度の事業計画、健診を取り巻く状況の報告の他、健診現場で起こるアクシデントへの対処方法、診察手順の確認などが行われた。一方、2月10日に本会で行

われたナース・ミーティングには、健康診断に従事している看護師をはじめ、関係スタッフ約30人が参加。16年度の事業概要や17年度の事業計画が報告された他、現場で起こるさまざまな課題への対応

## 平成28年度第3回 理事会を開催

本会

「本会は研究機関ではないが、事業の根幹を支える検査精度向上のための取り組みをテーマとして、さまざまな研究活動に活発に取り組みできている。業績回復の背景には、経営的な努力に加えて、こうした地道な研究活動に対する顧客からの評価があったものと考えている。」

東京都予防医学協会の平成28年度第3回理事会が3月24日、本会で開催された。理事会に先立って挨拶した小野良樹理事長は、「本会はこの数年、非常に厳しい経営状況にあったが、役員一同の奮闘努力により、28年度は好転することができた」として、次のように述べた。

健康教育の実践による1次予防にも力を入れていきたい。この後、理事会では小野理事長を議長に、平成29年度の事業計画と収支予算、短期借入金及び設備投資の見込み、定時評議員会に提出する次期評議員候補者推薦などの議案の審議が行われ、いずれも満場一致で承認された。

## お知らせ

### 職場の発達障害の理解と対応

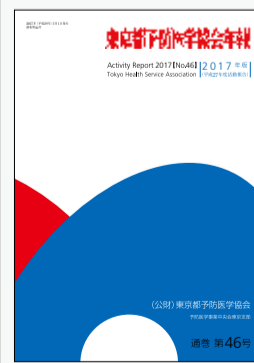
5月31日(水) 14:16時  
 東京・千代田区 星陵会館

第273回ヘルスケア研修会  
 第273回ヘルスケア研修会が5月31日に開かれる。

「職場の発達障害の理解と対応」をテーマに、筑波大学大学院社会環境医学系産業精神医学・宇宙医学研究グループ教授の松崎一葉氏が講演する。参加費2000円。定員300人(当日先着順)。

## 東京都予防医学協会年報 2017年版 第46号 (平成27年度活動報告) ができました

●各分野の執筆者とテーマは下記の通りです(敬称略)●



「年報」は本会のホームページ <http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp> からダウンロードできます。

### I 学校保健

- 心臓病検診** 「心臓病検診の実施成績」浅井利夫(東京女子医科大学名誉教授)
- 腎臓病検診** 「腎臓病検診の実施成績」村上睦美(日本医科大学名誉教授)
- 糖尿病検診** 「小児糖尿病検診の実施成績」浦上達彦(日本大学医学部教授)
- 脊柱側弯症検診** 「脊柱側弯症検診の実施成績」南昌平(聖隷佐倉市民病院名誉院長)
- 小児生活習慣病予防健診** 「小児生活習慣病予防健診の実施成績」村田光範(東京女子医科大学名誉教授)
- 貧血検査** 「貧血検査の実施成績と基準値の変更」前田美穂(日本医科大学教授)
- 寄生虫検査** 「寄生虫検査(学校保健分野)の実施成績」本会検診検査部

### II 地域・職域保健

- 定期健康診断・基本健康診査** 「定期健康診断の実施成績」須賀万智(東京慈恵会医科大学准教授)
- 胸部X線検査の実施成績** 金子昌弘(本会呼吸器科部長)
- 住民健診の実施成績** 本会地域保健部
- 特殊健康診断** 「特殊健康診断の実施成績」三輪祐一(本会総合健診部長)
- 保健指導事業** 「保健指導の実施成績」本会健康増進部
- 人間ドック** 「人間ドックの実施成績」三輪祐一(本会総合健診部長)
- 超音波検査** 「超音波検査の実施成績」本会検診検査部
- クリニックの外來診療** 「保健会館クリニックの実施成績」金子昌弘(本会保健会館クリニック所長)
- 母子保健** 「妊婦甲状腺機能検査の実施成績」本会母子保健検査部
- 性感染症検査** 「東京地区におけるクラミジア・トラコモナスおよび淋菌検査の実施成績」北村邦夫(日本家族計

- 画協会理事・家族計画研究センター所長)
- 新生児スクリーニング検査** 「新生児の先天性代謝異常症のスクリーニング成績」本会母子保健検査部
- 先天性甲状腺機能低下症(CH)の新生児スクリーニング実施成績** 杉原茂孝(東京女子医科大学東医療センター教授)
- 先天性副腎過形成の新生児マススクリーニング実施成績** 鹿島田健一(東京医科歯科大学大学院講師)
- 新生児スクリーニングで発見された成人フェニルケトン尿症の長期追跡** 大和田操(本会代謝病研究部長)
- IV がん検診** 「胃がん検診の実施成績」本会放射線部
- 肺がん検診** 「肺がん検診の実施成績」金子昌弘(本会呼吸器科部長)
- 「東京から肺がんをなくす会」の検診** 「東京から肺がんをなくす会」の実施成績」金子昌弘(本会呼吸器科部長)
- 大腸がん検診** 「大腸がん検診(便潜血

- 反応検査)の実施成績」本会検診検査部
- 子宮がん検診** 「子宮がん検診(女性検診センター)の実施成績」木口一成(本会検査研究センター長)
- 東京産婦人科医会との協力による子宮がん細胞診** 「子宮がん細胞診の実施成績」子宮がん検診における最近の話題」木口一成(本会検査研究センター長)
- 「レディースクリニック(レディース外来)の実施成績」** 長谷川壽彦(本会常任学術顧問)
- 「子宮がん精密検診センターの実施成績」** 伊藤良彌(本会婦人検診部長)
- 乳がん検診** 「乳がん検診の実施成績」坂佳奈子(本会がん検診・診断部長)
- 乳房2次検診センター** 「乳房2次検診センターの実施成績」坂佳奈子(本会がん検診・診断部長)
- V 研究・健康教育活動** 学会・研究会等での活動/健康教育活動/2015年度の本会の概要